令和6年9月玉川村議会定例会

議事日程（第2号）

令和6年9月9日（月曜日）午前10時開議

日程第 1 玉川村議会決算審査特別委員会正副委員長互選結果報告について

日程第 2 一般質問

出席議員（12名）

1番	小針善誠君	2番	堀越美保君
3番	佐久間福男君	4番	円谷兼一君
5番	岩谷幸雄君	6番	大羅将君
7番	須藤安昭君	8番	林芳子君
9番	飯島三郎君	10番	三瓶力君
11番	石井清勝君	12番	小針竹千代君

欠席議員（なし）

職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長	大越健一	会計年度任用	須藤智恵子

説明のため出席した者の職氏名

村長	須釜泰一君	副村長	丹内一彦君
教育長	岡崎寛人君	総務課長	須田潤一君
企画政策課長	添田孝則君	住民税務課長 兼会計管理者	塩澤春美君
健康福祉課長	坂本敬君	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長	塩田敦君
地域整備課長	高林浅輝君	教育課長	小針武彦君
公民館長	小針達夫君	遊水地 対策室長	溝井浩一君

◎開議の宣告

○議長（小針竹千代君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は12人です。

定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

(午前10時00分)

◎議事日程の報告

○議長（小針竹千代君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

◎玉川村議会決算審査特別委員会正副委員長互選結果報告について

○議長（小針竹千代君） 日程第1、玉川村議会決算審査特別委員会正副委員長互選結果報告について、その結果が届いております。

過日開催された玉川村議会決算審査特別委員会において、委員会条例第8条第1項及び第2項の規定により、お手元にお配りしました名簿のとおり、委員長、副委員長が互選されましたので、お配りした名簿をもって報告といたします。

◎一般質問

○議長（小針竹千代君） 日程第2、一般質問を行います。

通告順に質問を許します。

◇ 円谷兼一君

○議長（小針竹千代君） 4番、円谷兼一議員の発言を許します。

4番、円谷兼一議員。

〔4番 円谷兼一君登壇〕

○4番（円谷兼一君） ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、通告しておりました3点について質問させていただきます。

1つ目の質問であります。地域における防犯対策について。

村内において、スチール製のグレーチング等の盗難が相次いでおります。村では、盗難箇所にカラーコーンを立てるなど注意喚起と代替品の検討を行っているようですが、車両や歩行者の通行上の危険回避のための早急な対応が必要と思います。

また、全国では、依然として空き巣や強盗の被害、学生の下校時の被害なども発生しており、都市部はもとより、最近では郊外の山間部での発生も多くなってきていると感じます。これら空き巣や強盗、痴漢などはいつ起きるか分かりませんし、日頃からの防犯対策が重要であると思います。有効な対策の一つとして、防犯カメラの設置が考えられます。設置に当たっては多くの課題等があるとは思いますが、周辺でも設置も進んできていることから、検討すべき時期にきていると思います。

そこで、防犯対策として4点伺います。

1点目、防犯対策として、村では実施している取組はあるのかお伺いいたします。また、今後どのような防犯対策を実施していくのか、村の考えをお伺いいたします。

2点目、行政区の主要な交差点等に防犯カメラを設置できないかお伺いいたします。

3点目、防犯カメラの通学路の設置状況についてお伺いいたします。

4点目、防犯カメラの個人宅等の助成金等の制度はあるのかお伺いいたします。また、今後助成を行う考えはあるのかお伺いいたします。

次に、2つ目の質問であります。魅力ある環境での教育について。

6月定例会一般質問の村長答弁で、小学校の統合ありきではなく、玉川村で教育を受けさせたいという魅力ある環境を実現するため、村民の皆様からの意見を聴いて進める。また、6月から始まる村民懇談会等で地域の皆様からの意見を伺い、組織化等についても研究、検討するというものであります。

次代を担う子供たちの教育には、地域格差があってはなりませんし、そのためには、学校の在り方が重要になってきます。魅力ある環境の実現には、多くの課題などがありますが、

村の考えだと、行政と住民が知恵を出し合い検討していくとのことでもあります。人口減少、少子化は喫緊の課題であり、特に学校教育面での対応が求められています。

そこで、次の2点について伺います。

1点目、6月から実施された村民懇談会では、学校の在り方や統合等に関し、村民からのどのような意見が出されたのかお伺いいたします。

2点目、小中一貫校、義務教育学校、小中併設など様々な形態がある中で、村としての考えを早めに示すことで、村民等も理解し検討しやすくなるのではないかと思うが、村長の考えをお伺いいたします。

続きまして、3つ目の質問でございます。乙字ヶ滝公園イベント開催について。

乙字ヶ滝公園では、乙な市、ランタンフェスティバルなど多彩なイベントが開催され、多くの来場者でにぎわっております。昨年夏開催されたときの来場者数は約1,500名、今年夏開催は1,200名ほどであると聞いております。ランタンフェスティバルは、他市町村にはない、玉川村独自のイベントとして注目を浴びているところであります。これから乙な駅も開店しますように、注目されていくことと思います。

しかしながら、イベントの開催時には、駐車場のいろいろな問題が発生しております。主なものとして、駐車場が狭いため、駐車できずに何十分も待たされてしまう。駐車場が狭いため、駐車できずに車が長蛇の列になり、国道まではみ出す事態を起こしてしまう。駐車場に入るが、砂利のために土ぼこりが出てしまい、飲食店等に迷惑がかかる。こういった来場者の対策としての環境整備問題を解決しながら、村をPRできる、注目される、もっと総合的にすばらしいイベントになるようにしていくための取組が必要と思います。

そこで、2点についてお伺いします。

1点目、駐車場を舗装する計画はあるのかお伺いいたします。

2点目、乙な駅でも使用される駐車場になりますが、増設の計画はあるのかお伺いいたします。

以上の質問となります。よろしくお願ひいたします。

○議長（小針竹千代君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長。

〔村長 須釜泰一君登壇〕

○村長（須釜泰一君） 皆さん、おはようございます。

4番、円谷議員のご質問にお答えいたします。

1つ目の地域における防犯対策についてであります。1点目の防犯対策の実施状況及び今後の実施展開につきましては、本村では、玉川村防犯協会を中心に、防犯指導隊やこぶし隊によるパトロール、防犯灯の新設等の各種防犯活動を実施しております。また、スクールガードリーダーによる下校時の見守りなど、地域の皆さんのご協力により防犯対策を実施しているところであります。今後も、本組織において相互共助の精神を持って、犯罪を未然に防止する対策を講じるとともに、民警一体となり治安の確保に努めてまいります。

2点目の行政区の主要な交差点等への防犯カメラの設置につきましては、現時点において、防犯カメラの設置は計画しておりませんが、今後、周辺自治体の状況等を調査研究してまいりたいと考えております。

3点目の防犯カメラの通学路の設置状況につきましては、設置の実績はございません。

4点目の防犯カメラの個人宅等への助成金等の制度につきましては、現在、村において設置補助金等の制度は設けておりませんが、今後、周辺自治体の状況等を調査研究してまいりたいと考えております。

2つ目の魅力ある環境での教育についてであります。1点目の村民懇談会で出された意見につきましては、学校の在り方や統合等について村民の関心も高く、様々な質問や意見がありました。内容については、村内の2つの小学校統合について、その計画の有無や現在の検討状況、さらには、一步踏み込んで統合の時期など、個人の考えや要望を含んだ内容もありました。このほか、児童生徒の減少に伴う部活動の地域移行についても、現状や村の考えについて説明するとともに、意見交換を行ったところであります。

2点目の村としての考えを早めに示すことにつきましては、今後、地域の方々等による、仮称ではございますが、学校の在り方検討委員会を設置し、統合ありきではなく、まさに少子化が急激に進む中での小中学校の在り方について検討してまいりたいと考えております。

その上で、例えば統合することとなった場合、小中連携の教育効果を高めるために、小学校のみの統合ではなく、将来を見越して、中学校も含めた小中一貫校という統合の仕方も含め、様々な学校の形態について検討していく必要があります。その場合、小中学校の併設校、義務教育学校などが代表的な例ですが、小学校、中学校の特色を生かした同一校舎による併設校の統合などが考えられます。同一校舎にすることで、中学校から専門教科の乗り入れ授業や合同行事の開催、施設の共有などメリットがあるだけでなく、小学校、中学校それぞれの特色ある学校生活も存続できるものと考えております。また、将来、児童生徒数がさらに

減少した場合にも、小中学校が同一校舎であれば、9年間のカリキュラムによる義務教育学校に移行することが必要になった場合にも、スムーズに移行することが可能となります。

村といたしましては、まず、（仮称）学校の在り方検討委員会において村民の皆様のご意見をいただきながら、今年度中に、よりよい方向について検討してまいりたいと考えております。

次に、3つ目の乙字ヶ滝公園イベント開催についてであります。乙字ヶ滝公園駐車場の舗装計画及び増設計画につきましては、現在、乙字ヶ滝公園では、玉川村観光物産協会が主体となり、光の乙字ヶ滝イベントと称してランタンを点灯するイベントを年に3回程度開催しております。また、ランタンの点灯以外にも、マルシェ事業として、乙な市、乙な夜市といったイベントも開催しており、特にマルシェイベントは来場者も多く、現在の駐車場には入り切れない車両が村道に並び渋滞となっている事態は、村としても把握をしております。今月末には乙な駅もオープンし、乙字ヶ滝公園付近には一層の観光客の増加が見込まれます。

このようなことから、隣地も含めた駐車場の増設については、現在も用地の確保に向けた取組を行っているところであります。なお、駐車場の舗装計画については、現時点では、駐車場の拡張工事の完了後に一体的に検討してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 4番、円谷議員。

○4番（円谷兼一君） 再質問させていただきます。

まず最初に、地域における防犯対策についてのことであります。

この質問、なぜこの質問等をしたかと申しますと、村民の方の意見があったことと、会津地方での強盗に入った犯人を防犯カメラのおかげで逮捕できたことです。村として、どうしてもできないというのであれば、個人の防犯意識を高めるためにも、個人宅に防犯カメラを設置していただくようお願いの通知が必要ではないかとお伺いいたします。

また、どのようにすればできるのかを考え、少なくとも最低限、学校近くの周辺には防犯カメラを設置できないかお伺いいたします。よろしく申し上げます。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 円谷議員の再質問にお答えをいたします。

まず、主質問に対しての答弁でもお答えさせていただきましたが、個人宅等への防犯カメラの助成等につきましては、現在は補助制度はございませんが、これらについては今後、周辺自治体の状況等を調査研究してまいりたいというふうに考えております。

そういう中で、個人宅への防犯カメラの設置等は、あくまでも個人の考えによるものでご

ざいまして、個人的なことへの過度な行政の介入はいかなものかというふうには考えております。ただ、防犯意識の醸成は、引き続き取り組んでまいりたいと考えておりますので、例えば、村によります広報紙やSNS等を活用しながら、これからも実施してまいりたいというふうに考えております。

2つ目の、少なくとも最低限、学校近くの周辺には防犯カメラを設置できないかというおただしでございますが、これらにつきましては、今後、管内町村でしたり近隣市町村等の状況等を調査研究させていただきながら、関係団体とも意見交換をさせていただき、ご意見をお伺いしながら調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 4番、円谷兼一議員。

○4番（円谷兼一君） やはり、そういうふうになっていければ、最低限で学校近くに防犯カメラ等が設置できれば、もし何かあった場合に犯人の追跡とか、そういうものに役立つものと考えますので、これから前向きにお願いしたいと、村民の命を守り、財産を守るために、前向きな行動を起こしていただきたいと思います。

それでは、次に、次の再質問をさせていただきます。

申し訳ございませんが、先に3つ目の乙字ヶ滝公園イベント開催について、先に質問をさせていただきますと思います。

乙字ヶ滝公園イベントの開催についてということで答弁がありました。これも、なぜこのような質問に至ったのかというのは、ランタン点灯のイベントの際に、私も夕方から参加しておりまして、その際に、いろいろな方から、この駐車場の問題はどうかにならないのかという意見が出されたものですから、この質問をすることにしました。

村としても、将来的に駐車場の拡張は計画しているということで答弁がありましたので、その分かる範囲で結構なので、拡張する時期はいつ頃になるのかというところをお伺いいたします。よろしく申し上げます。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 円谷議員の再質問にお答えをいたします。

まさに議員おただしのおりだという部分につきましては、私も認識しておりますし、まさにそのとおりだなというふう考えたところでございます。

そして、9月28日には、乙な駅たまかわもオープンするということでございますので、私は、これからの村づくりにとって大事なものは2つあると思っております、それは、1つは交流の拡大であり、もう一つはにぎわいの創出だと思っております。この乙な駅たまかわがオ

オープンすることによって、あのエリア、さらなる交流の拡大、にぎわいの創出が期待できるのじゃないかなというふうに考えております。

そういうことから、駐車場の増設ということは必要なことではないかというふうに認識しておりまして、質問に対してご答弁させていただきましたとおり、隣地を含めた駐車場の増設については、現在も用地の確保に向けた取組を行っております。様々な課題も見えておりますので、そういう課題等を早急に調整しながら、ここでいつという時期については、なかなか明言することは難しいのですが、できるだけ早く増設できるように取り組んで、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 4番、円谷兼一議員。

○4番（円谷兼一君） やはり拡大の拡張の計画はしているのですが、多分相手もいることで、いつということは明言できないというふうにお察しします。この観光地イベントは、近隣市町村にはない魅力があるものですから、村長がおっしゃるとおり、できるだけ早い対応をお願いいたしたいと思えます。

それでは、最後に、2つ目の魅力ある環境での教育について再質問させていただきます。

村長から、かなりの具体的、計画性のある説明をいただきました。将来的には、よりよい学校ができると思えます。

そこで、お伺いいたします。小中一貫校、小中併設校にした場合の現状の違いや、どのようなメリットがあるなど、また、先生の数などの違いをお伺いしたいと思います。よろしくお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 教育長。

○教育長（岡崎寛人君） それでは、ただいまの円谷議員の質問にお答えいたします。

小中一貫校、小中併設校について、まず簡単にご説明します。

小中一貫校といいますのは、9年間、小学校6年間、中学校3年間、これを初等課程、中等課程ということで、連続した教育課程による学校のことを指します。いろんな形態がありますが、その代表的なものは、いわゆる義務教育学校というものであります。この辺ですと、須賀川の稲田学園、それから郡山の西田学園などが挙げられるかと思えます。

小中併設校といいますのは、小学校と中学校、それぞれに独立した形で隣接をする、または同一校舎であったり同一敷地内という形を取って、小学校、中学校を独立した形でありながら連携をしていくというスタイルであります。この辺ですと、郡山市の明健小中学校などが挙げられます。

それぞれにメリットがありますので、どちらということではないのですが、現在の玉川村において、小学校の統合に加えてそのような形態の学校を取った場合の大きな違いは、学級数が増えるということです。学校によって、学級数が増えるということは、教員数も増えたり、子供たちの活動、社会性が増したり、各行事などもやはり大勢でやったほうがいろんなことに挑戦できますので、教育環境は幅が広がるということで、大きなメリットがあるかと思えます。

特に教員の数につきましては、現在の玉川第一小学校におきましては、学級数が10になります。教員数が11です。須釜小学校につきましては、学級数は普通学級、特別支援合わせて7です。教員数は8です。ところが、統合した場合、小学校のみ統合で考えた場合には、特別支援学級等の数ははっきりしませんが、18学級ぐらい予想されます。そうすると、教員数は一気に20人になります。教員数が増えるということは、子供たち一人一人に関わる先生の数も増えるということなので、子供たちにとって大いにメリットがあります。そうすることによって、子供たちの個別の指導、不登校の防止など、いろんな効果が考えられますので、現時点におきましては、統合というメリットは十分に考えられると思っております。

小中併設校、小中一貫校、それぞれに形態がありますが、同一校舎にすることによって、施設の共有、例えば理科室を小学校、中学校両方使えるようにする、体育館を一緒に使う、それから、いろんなホール等を一緒に使う、そういうことをすることによって、非常に子供たちの活動も小中の分け隔てなく、いいスムーズな交流をしながらできますし、授業におきましても、中学校の専門の先生が小学校のほうに行くということも可能になってきます。それによって、小学生が専門的な教育を早いうちから学ぶことができ、いわゆる中1ギャップを防ぐと、また不登校などを防ぐことの予防にもつながるかなと思っております。

また、施設を統一することによって、経費面のメリットもたくさんあると思えます。校舎が1つになるということは、そのような面もありますし、あと同じ場所に設定することが可能であれば、スクールバスなども一本化することで、大いに経費面での削減もできますので、メリットだけ申し上げましたが、そのようなことがあります。

まだ、これからまだいろいろ検討しなければならないことがありますが、現時点でお伝えできることは以上です。

○議長（小針竹千代君） 4番、円谷兼一議員。

○4番（円谷兼一君） ただいま教育長から説明がありましたように、大分メリットが大きい、多いということが分かりました。建設した場合のときのコストなんかも、大分削減されるの

ではないかというふうに思われます。

次に、村長にお伺いいたします。仮に小中一貫校にした場合に、玉川村の教育、文化活動エリアとして、現在の文化体育館に近いところに集約できないかというところ、お伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 円谷議員の再質問にお答えをさせていただきます。

本日は、須釜小学校6年生の皆さんが傍聴に来てくださいました。ありがとうございます。皆さん方にも関係することだと思しますので、私の現在の思いをお話をさせていただきたいと思えます。

今、円谷議員からご質問ありましたように、仮に統合となった場合でございますが、例えば統合する場合に、例えば校舎をどうするのだという問題については、2つ考えられまして、既存の校舎を使うという、現在の中学校の統合したような例が一つ考えられます。もう一つは、統合したときに新しい校舎を造るということも考えられますので、そうした場合の財源問題でしたり、教育長が答弁させていただきましたが、通学の際の問題、そして、さらにはおただしの場所をどうするのだという問題もあります。さらには、既存の小学校の跡地利用をどうしていくのだというような問題など、検討していくべき事項というのが、本当に多岐にわたってまいりますので、その一つ一つについて、我々は村民の皆様、そして議員各位のご意見をしっかりとお聴きしながら、しっかりと検討してまいりたいと思えますし、未来を担う6年生の皆様方にも恥ずかしくないような、そういう検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小針竹千代君） 4番、円谷兼一議員。

○4番（円谷兼一君） 回答していただきましたが、先ほども言いましたように、教育、文化活動エリアとして集約できれば、近隣市町村にはないすばらしい場所になるかと思えます。多分モデル地区になるのではないのでしょうか。そのようにいろいろな方々と検討しながら、本当にそういうことが実現できるように対応していただきたいなど、私、思うところであります。

これで私の一般質問とさせていただきます。

○議長（小針竹千代君） これをもって、4番、円谷兼一議員の一般質問を終わります。

ここで10分間の休憩を取ります。

(午前10時34分)

○議長（小針竹千代君） 休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

（午前10時44分）

◇ 林 芳 子 君

○議長（小針竹千代君） 次に、8番、林芳子議員の発言を許します。

8番、林芳子議員。

〔8番 林 芳子君登壇〕

○8番（林 芳子君） ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、さきに通告しておりました件につきお伺いいたします。

1、玉川村における大雨などによる土砂災害等の発生に対する取組及び防災計画について。県は、今年6月12日に、大雨などによって斜面の崩壊や土石流が発生する危険がある場所を新たに3万8,670か所の確認をしたと発表した。玉川村でも、平成29年から令和3年まで43か所の確認、急傾斜地の崩壊17、土石流25、地すべり1、特に令和3年に入って6件、うち地すべり1件、特別警戒区域5件と増えてきていると見られます。

梅雨に入り、今後の梅雨入り後の短時間雨量情報が、玉川村においては20ミリから30ミリ程度であるが、連日のように携帯情報に入ってきております。雨が降ってもほとんどが空振り、逆にほっとしているところでもあります。しかし、7月末の山形県での記録的大雨、48時間に200ミリから500ミリを超えている状況が観測されており、7月23日には、須賀川市で1時間に80ミリの予報が出て、玉川村においても側溝があふれたとの情報もありました。8月5日には、80ミリの予報がなおさら出ております。

昨今の異常気象によると見られる災害に対する村の取組についてお伺いいたします。

（1）村では、平成23年の東日本大震災の教訓を基に令和2年3月に防災マップを出しましたが、その間、令和元年10月の台風19号による甚大な被害があり、今回の阿武隈川緊急治水対策プロジェクトが立ち上がり5年になりました。

さて、災害はいつ起こるか予測不可能になってきています。そこで、6月の一般質問にも

あったのですが、条例に沿っての体制、対応については熟知できますが、玉川村として、今、災害が起きた場合の村の緊急連絡網について伺います。災害対策本部の体制以外ということ
です。

1 番目として、連絡網の順位、地震の場合、震度幾つから、また大雨等による災害の場合、役場職員は集合になるのかお伺いいたします。全職員になるのか、役職員なのか、その辺をお伺いいたします。

2 番目に、休日、祝日、村外に出かけている場合の集合は、また村外に出る場合の届けは必要とするのかお伺いいたします。

3 番目として、携帯電話が繋がらなかった場合の対応についてお伺いします。その携帯の連絡網はどのようになっているのか伺います。

4 番目に、職員に飲酒後、緊急呼出しがあった場合の対処についてお伺いします。

5 番目として、係長まで、あるいは全職員が集合するまでに要する時間を把握しているのか伺います。

2 番目、②番目として、すまみプラザにある防災倉庫の鍵は、スペアキーも含め誰が所有しているか、また保管方法はどのようになっているのか伺います。また、現在、宅地造成工事をしているが、防災倉庫までの通路は確保され、非常時でも速やかに対処できるようになっているのか伺います。

③として、水害の場合の水防管理団体の水防倉庫はどこにあるのか、また、その備蓄品はどのようになっているのか伺います。

④6 月定例会の佐久間議員の質問の回答で、防災訓練、職員の参集等ですが、できていないとのことでしたが、実際、実施できていない状況ならば、全職員の通勤時間等を総務課、災害対策本部事務局としては把握しているのか。また、平時とは違い、非常時には冷静な判断、迅速な参集が求められるが、迂回路等を事前に確認し届出しておくことが必要だと考えるが、これまでに職員個々の状況を把握したことがあるか、また行う予定があるのか伺います。

(2) として、村発行の防災マップ及び県の土砂災害警戒区域等の指定箇所においても、危険域が民家の敷地内であったり、下流域に民家があったり、あるいは接続している場合がほとんどであるが、村としての対応策はどのようになっているのか伺います。

以上、よろしくお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長。

〔村長 須釜泰一君登壇〕

○村長（須釜泰一君） 8番、林議員のご質問にお答えいたします。

1つ目の緊急の連絡網についてであります。1点目の連絡網順位につきましては、地震の場合、警戒配備は震度4が観測された場合、第一非常配備は震度5弱または震度5強の場合、第二非常配備は震度6以上が観測された場合となっております。

大雨等の場合、事前配備は、気象注意報が発表され、なお警報の発表が予想される場合、警戒配備は、大雨洪水警報、土砂災害警戒情報、指定河川洪水予報が発表された場合、第一非常配備は、村内の局所に災害が発生し拡大するおそれがある場合、複数の地域で災害の発生が予想される場合、第二非常配備は、村内の複数または全域にわたって災害が発生した場合、被害が拡大と予想される場合を基準としております。

村の地域防災計画においては、それぞれの段階で参集する範囲を決めており、事前配備では、総務課及び地域整備課の少数の人員、警戒配備では、各課長及び関係各課の所要人員、災害対策本部設置後の第一非常配備では、三役を含む全職員で各部各班体制を組織し、第二非常配備では、関係協力機関での災害応急対策活動を実施する体制としております。

次に、休日、祝日等による不在時の参集と村外に出る場合の届出の要否につきましては、災害発生時の参集要請は、基本的に携帯電話で各課長または担当者へ連絡をしており、また台風等の襲来が予想される場合には、自宅待機等の指示をしております。村外に出かける場合の届出については、村外から通勤している職員もおりますので、特に要請しておりませんが、3日以上連続で県外に出る場合は離任地届を提出してもらい、連絡先を把握しております。

次に、携帯電話が不通である場合の対応につきましては、自宅への有線での連絡やメール、LINE、SNS等による情報伝達を行っております。

次に、職員が飲酒後に緊急呼出しがあった場合の対処につきましては、状況に応じ、家族や知人等による送迎等で対応しております。また、台風等の場合は自宅待機を指示しておりますので、当然飲酒は控えているものと認識しております。

次に、係長まで、あるいは全職員が参集するまでに要する時間につきましては、通勤届出を参考にすると、最も居住地が遠い者が参集するまでに要する時間は約1時間30分前後となります。

2点目のすがまプラザにある防災倉庫の鍵の保管及び通路の確保につきましては、防災倉庫の鍵については、総務課と須釜行政センターで保管しております。また、宅地内の道路は公衆用道路ですので、緊急時も円滑な通行確保ができると考えております。

3点目の水防管理団体の水防倉庫につきましては、役場南側にある消防倉庫と兼用しており、水害発生時に対応するため、土のう袋やブルーシート、スコップ等を保管しております。

4点目の全職員の通勤時間の把握につきましては、通勤届出により把握しております。なお、緊急時の迂回路については把握しておりませんが、高速道路を利用している職員を除いては、主要な道路以外の利用も可能かと考えております。また、迂回路を届け出ていても、被災により通行できなくなる可能性もありますので、現時点においては、届出を求める考えはありません。なお、役場への参集については、職員が災害の状況に応じて個別の判断で可能であると考えております。

2つ目の、災害警戒区域等の指定箇所における村としての対策についてであります。防災マップを全世帯配布し、関係者及び近隣の方々に対し、災害時の避難路や避難場所等について注意喚起を行うとともに、災害に対する備えなどについても周知をしております。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） それでは、再質問に移らさせていただきます。

ウェザーニューズ社等のヤフー情報、公的な情報ではないかと思いますが、それによりますと、昨日の時点で、9月8日に4回、大雨注意報が出ているのですよね、玉川村で。午後の2時50分、3時、3時半、18時、6時ということで、だんだん雨量が増えてきておりました。

そうすると、先ほどの答弁の中で、大雨等による場合は、気象注意報が出た場合、あるいは警報が予想される場合、された場合ということなのですが、大雨結構降っていました。そのときには、役場職員への連絡等については、例えば総務課のほうから、ある程度の役職員のほうには連絡が入ったとか、そういうことはしておるのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいま林議員の質問でございます。

大雨等の場合、大雨が継続する場合、各課長等への連絡はしているのかということでございますが、さきほど村長の答弁にもございました事前配備につきましては、気象注意報が発表され、なお警報の発表が予想される場合について判断しまして、総務課長から関係各課に連絡することになってございます。昨日の場合には、警報の発表が予想される場合には当た

っておりませんので、特に連絡はしてございません。

ただし、南須釜の区長さんから県道への倒木がありましたという報告を受けましたので、関係課の地域整備課長に連絡をしてございます。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） そうすると、役場の中への分につきましては、先ほどの配備によるものと考えて、区長なりが地域住民からの連絡が行った場合にのみ対応しているという形になるのでしょうか。それとも、その通報があった場合のみという形なののでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 林議員の再質問にお答えをいたします。

体制の組み方という部分につきましては、いろいろ考えられると思います。例えば、大雨が続くような場合については、例えば警報が出ていない場合におきましても、それぞれの管理者が、自分が管理している施設を巡回して回るというのは、まずやりますし、常に区長さん等からの情報を受けられるようにもしておりますし、それが大きな場合につきましては、役場内での情報の共有を図るということは徹底しております。

例えば、今日も幹部職員の朝礼で、私のほうからも指示を出したのですが、今までも台風はあったのですけれども、これからますます台風が増えたり、あとは秋雨前線による雨が長くということがありますので、何かあった場合については、まずは第一報、第二報、そして最終報というふうな形で、当然に情報共有を図っていこう。その場合、もし被害がなかったら、被害がなかったという報告を、被害があった場合については、その被害の状況について報告を出してほしいというような指示は本日も出しております。

そういう中で、例えば先ほど総務課長のほうから、県道の倒木のお話があったかと思いますが、そういう場合については、私のほうにもLINEでこういう状況になっていて、こういう形で対処していますというふうな情報は上がってきております。そういう意味では、その必要に応じて、しっかりと対策を取りますし、対応してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 先ほど区長さんのほうから、県道に倒木がありましたということがありました。県道の倒木だと県の管轄ですよ。

前に、何年前かに、役場の近くの県道沿いの歩道部分のところなのですが、役場に用があって朝来たときに倒木があったのです。散歩していた人もいたのです。前の日、雨が降って、台風だったので今のくらいの季節なのですが、そのときに役場のほうに言っ

ならば、県のほうに言っておりますと、その一言だったのです。それで、それが役場終わってから、また帰って、午後また来たのです。どうしても気になったので来たのですが、まだそのままの状態、どこかの人が、それをよかしてくれてたのです。どうなっているのですかって聞いたら、県のほうに連絡してありますということだったのです。県がやらないと、村としてはできないのですかと言ったら、県の仕事ですという話があったのです。

そこを早急にやるのには、やはり村の力を借りないと、県だけでは無理だなということで、その辺の連携はどうなっているのですかって聞いたことがあったのです。そのときの総務課長さんが、いや、何とかそこはしたいのですということがあったのですけれども、それと、今回の倒木がありました、その後は昨日の今日なのですが、どのような対処をする予定でしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの林議員のご質問でございます。

昨日の県道への倒木のご質問でよかったですでしょうか。昨日、南須釜区長さんから連絡を受けまして、当然県道ですので、石川の土木事務所にも連絡はしております。片側が通れない状況でしたので、石川警察署にも連絡をしてございまして、そこで交通の誘導もしてございます。

そのような状況について、地域整備課長が、現場に向かいまして、現場での対応も確認しております。朝、私も現場を確認してきましたが、既に倒木等は片づけられておりまして、通常の通行ができるようになってございます。

県道、村道それぞれ管理者が違います。県道の倒木について、災害等があった場合には、道路ごとに石川土木事務所から各建設業者さんの割り振りがありまして、どこどこの路線で倒木があったといった場合には、石川土木事務所からその業者さんへ連絡が行きまして、その業者さんが、その災害現場へ向かって復旧するようなことになっております。

村道、県道とも連絡を密にしてそれぞれやっておりますが、県道まで村のほうで全て対処するというのはなかなか難しいとは思いますが、緊急性や道路が通行止めになってしまった場合については、当然、村の作業員等でも対応している場合もございます。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 管轄があるのは分かるのですが、やはり早急に、今、緊急性を要するものであれば、どかすだけでも結構ですので、その辺は玉川村と県の土木のほうとの連携を密にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次ですが、携帯電話がつながらなかった場合ということで、携帯電話は何かあった場合につながりにくくなるのは当然だと思います。かといって、固定電話は無理だと、そこに常駐していないといけないから無理だとなりますが、その場合にSNS、メール、LINE等使うということなのですが、役場としては、例えばそれ以外のものって、何か連絡網としてはあるのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの林議員のご質問でございます。

携帯電話がつながらなかった場合、また有線がつながらなかった場合、役場独自の連絡網はあるのかとのことでございますが、村独自で通信網というようなものは所持してございません。ただし、災害発生時、今それぞれ携帯会社のほうで災害時のサービス等もございます。そういったものを利用すれば、何らかの方法で連絡は可能かなと考えております。

また、どうしてもつながらない場合、人が直接車で運転して、その自宅まで行って連絡するという事も考えられるかと思えます。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） やはり携帯電話が、今すごい便利ではあるのですが、緊急時の場合に通じなかったら、ただのおもちやと同じになってしまうので、その辺、人命にまで関わるようになった場合も起きてきますので、その辺の連絡が取れるような形を、ぜひとももっと考えていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

それと、参集範囲ということで、すみません、行った来たなのですが、参集範囲として、課長ほか少数の人員ということなのですが、19号台風のときに、竜崎のほうでボートが出て人を、車とかは無理だということで、ボートで運んでいるときに、当然国道は通って来れないから、上を通って役場に行った。そうしたら、電気がついていなかったと。では、どこに連絡したらいいのだろうということがありました。それもお聞きしております。

そういう場合に、少しの人数だと連絡がなかなかつかないとなりますと、やはり役職員ある程度の集合なり、どんな形かを取っていただかないといけないと思うのですが、少数の人数あるいは何人か程度、所要人員ということなのですが、それは何人程度を考えているということですか。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 林議員の再質問にお答えをいたします。

その参集する人員なのですが、まず災害が、大きく災害が起こるといった場合については、

災害対策本部等を設置していきますので、そのときには全職員が一応対象という形になります、我々三役も含めまして。その前段としての情報収集とか何かという部分については、先ほど答弁させていただきましたとおり、総務課の職員でしたり、あとは地域整備課の関係する職員が集まって情報収集等を行う。それでも、すぐにもう段階的に、大きいのが分かっている場合については、その段階から、災害対策本部に準ずるような形で実際の体制を組んでまいりたいというふうに考えていますので、ですから事前、順番的には一応つけてはおりますけれども、実体的な部分においては、大雨が降りそうだとか、洪水になりそうだという部分につきましては、当然それはもう災害対策本部に準ずる形になりますし、すぐに災害対策本部の設置という形にしていきたいと思っておりますので、そこは人数的には十分対応できるように、そういう体制を組んでまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 今年に入ってから、地震を筆頭に、1月1日からいろんな起きているのですが、大雨等によっても、今までの間、9か月の間、ものすごい雨だったりとかあるのですが、やはり最初の初動捜査、初動の動きが一番大事であるというのがメディアでは発表しています。やはり本部つくるのは当然なのですが、その前にどんな形だろうということをやっていないと、なかなかやはり人を守れないのじゃないかなと。起きてしまったことには後手後手に回ったよりは、やはり皆さんどう動けばいいのか、どうすればいいのかというのが、これから9月、10月、大雨の時期になります。台風だったりいろんな、玉川村でも氾濫しているのはこれからの季節になりますので、その辺、人数はどうであれ、すぐに対応できるような人数を確保していただきたいと思っておりますし、すぐに集まれる、集合できる人数の確保は、役場のほうで把握していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それと、通勤の場、係長、全職員が集合するまで1時間半ということなのですが、やはり村外に住んでいる方もいらっしゃるもので、どこで何分ではないのですが、役場職員は多分通勤手当を頂いているので、どの道を通して通勤しているという届けを出さないといけないので、その辺の時間の配分があって、何分で役場に着きますということになるかと思っております。有事があった場合には、当然災害ですので、同じ道を通るわけにはいかないということは往々にしてあると思っております。じゃ、別なルートを通るかとなると、それも同じような災害になった場合には、もっともっと別な道を通らないといけないのですが、今、役場職員のほうとしては、恐らく通勤手当用の道としてしか通っていないかと思うのですが、できれば、別な道を通っても、ここも通れるのだと、何も起きていない状態で、それをやっていただける

ことは可能なのでしょうか。例えば、自分の通勤、退勤の時間に合わせて、別な道を通って家に帰るとか、役場に来るとか、ある程度それをやっていただくというのは、結局みんなで防災訓練をするわけにはいかないもので、それくらいしか、今できることがないのかなと思います。

何でかという、病院等でも、やはり地震だけじゃなくて、いろんな災害が起きた場合にどうしようと、入院している患者さん、寝たきりの患者さんでさえ動く、動かしてやっているわけですから、役場でできないわけではないと思うのですよね。なので、せめて通勤、退勤時間の通勤道路、通路の何本か別な道を通って、これくらい時間かかるのだよというのをやっていただくことは可能なのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 林議員の再質問にお答えをさせていただきます。

主質問に対しての答弁の際に、どのくらい通勤時間がかかるのだという部分につきましては、お答えさせていただいたとおり、通勤届によるもので算定している時間でございます。

あと、さらにもう一つ答弁させていただきましたけれども、緊急時の迂回路等につきましては、我々はまだ把握はしておりませんが、職員は当然に、この通勤手当、通勤の場合については決められた道を通るとというのが、もう決められておりますので、それで通勤してもらっていますけれども、いざとなったときに、じゃそこが駄目になった場合、どこを通るのだという部分については、常にそれは意識をしているというふうに考えております。

先ほど議員がおっしゃられたとおり、やっぱり災害って一番何が大事かということ、村民の皆様方の生命、財産をしっかりと守ることが大事ですので、安全安心に進めていくためには、やっぱり初動をいかにして速やかに迅速に対応していくかというのがとても大事になってまいりますから、そういう意味では、常日頃からそういう意識を持って、この道が駄目な場合については、こっちの道に行くのだという部分の想定はしていると思いますし、改めて私のほうからも、職員に対しては指示をしたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） そこに、その分については、ぜひともお願いしたいと思います。

次、すま Plazaにある防災倉庫の鍵は総務課、課内ですよね、と須釜行政センター内に保管してあるということですが、この最初に来た人がそれを開けるのかなと思うのですが、そうすると、防災倉庫に今、工事している宅地造成していますが、校舎側から下りるのには階段を下りないといけない。北側のほうから入れるように、入ってくる周回道路かな、管理

道路を通ってくるには、ちょっとそのまま道が土手になっているので、ちょっと怖いなと、夜だったら怖いなというのもありまして、校舎側から宅地造成しているところに長めに道路分を造って、防災倉庫のほうに一本だけ余計に通してくれれば、また別かなと思うのですが、確実に通れるという、あそこの立ち位置、建物の立ち位置がもうちょっと考えてくれれば、行ってすぐに取り出せる、何かあった場合、緊急事態が発生した場合には、すぐに取り出せる状態であるのですが、何回見ても、これどうやって出すのだろうか、いつも疑問に思っているのです。

その防災倉庫をほかに引っ越す予定ですかと工事の業者さんに聞いたら、その指示は受けておりませんということでしたが、その別、すま Plaza のあの宅地造成をしている敷地内の移転とか、それは考えていますでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの林議員のご質問でございますが、防災倉庫を今回、宅地造成の際に移転をするかどうかというふうなことでございますが、移転の計画はございません。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） それでは、何かあった場合には、昼間運ぶからいいのかなと思うのですが、そのように考えていいのでしょうか。何かあった場合で、緊急のための防災倉庫じゃないのかなと思うのですが、その辺、計画、移転の計画がなければ、夜、動くということはないということ考えてよろしいですか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） 当然、緊急時は夜も対応したいと思います。

防災倉庫の前につきましては、先ほど村長答弁のとおり公衆用道路として整備されますので、公衆用道路等から夜間でも入ることが可能でございます。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 当然、宅地内の道路であれば公衆道路、2軒以上の建物があれば公衆道路かと思いますが、万が一、そこの宅地造成の中の何軒かのうちの、住んでいらっしゃる方は分かっていると思うのですが、住んでいない方がたまたまどこかの家に遊びに来たといったときに車を止めてしまったと。そういう場合には、何かしてもらったりとか、そこは通行禁止ですよという形を取るのか、その辺ってどうなのでしょう。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 林議員の再質問にお答えをいたします。

例えば、今おただしのような公衆用道路のところに無断で駐車をしてしまった場合、どうするのだとかという部分については、どちらかというところハード的な部分じゃなくてソフト的な運用の部分での対応になるかと思っておりますので、基本的には路上駐車はやらないようにということは、もう当然のことでもありますので、そこは住む方々に対しても周知してご協力をいただくようにしていきたいと思っておりますし、あと万が一、校舎の、校舎といいますか体育館のほうからも下りられる道はありますので、そちらのほうから入ってくることも可能だと思っております。

万が一、公衆用道路と言われたところが、何か規則を破ったといいますか、心ない方のために止められてしまった場合に、その場合については、事前の策として、そういう方法も考えられると思っておりますので、1つはソフト的な部分でしっかりと対応できるように、皆様方にもご協力いただけるよう周知してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 災害とか何かで起きた場合に、普通にしていれば何でもないので、やはり今みたいに違法駐車だったりとか、何かあった場合に、そこに起きるのが往々にしてあるのですよね。それなので、やはりその辺は、そこに住んでいる宅地の住人だけをお願いするというわけにはいかないで、ほかからも入ってきますから、いろんなメディアの活用、SNSだったりとか広報だったりとかチラシだったりとか、いろんな活用をして、そこは違法駐車できないような形を取るとかやっていかないと、防災倉庫の意味がなくなるのではないかなと思っておりますので、その辺は協力をよろしくお願いいたします。

もう一つなのですが、水防倉庫、昔で言う郷蔵ですね、についてなのですが、水防倉庫は役場の南側にある消防の倉庫と兼用してあると。中にあるのは、土のう袋、ブルーシート、スコップ等であるということなのですが、県のほうで、これを、これくらいの数、置いてほしいというふうなのがホームページ上で出しているのですが、これって土のう袋の大きいのと小さいの、ブルーシート、スコップ等、どれくらいの枚数なのか、そのほかには何があるのか教えてください。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの林議員の質問でございます。

水防倉庫にある備品について、県のほうで指示されています防災倉庫の備品、全てをここに準備はまだできておりませんが、ブルーシートですとおおよそ100枚、土のう袋ですと3,000袋、そのほかトラロープ、スコップ、ハンマー、掛矢並びにくい、木のくい等を備品として

在庫してございます。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） これは県で決められているのですが、各管理者である市町村によって、これぐらいあればいいでしょうという把握でも大丈夫だということなのではないでしょうか。玉川村ではこれだけ必要だから、これがあれば間に合うでしょうという形なのか、調達するのは、ホームページのほうに載っていたのは3軒あったのですが、恐らく1軒はないので、2軒の店舗から調達するのかなと思うのですが、そうすると、ここの役場等の契約されている調達する店舗というのは、これをそろえておいてくれるのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） 災害発生時に協力いただく備品等については、常に業者さんと連絡をしておりますので、必要なものについては在庫のほうがあると思っております。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） では、水防倉庫のほうにつきましても、安心して管理していただけるということによろしいですね。

それとですが、先ほど防災訓練、私、質問して、防災訓練ができていないということでしたが、消防団のほうは大体週1回に集合して、機材の点検とか倉庫の確認等を行っている。なぜかという、今までやったことがなかったのだけれども、地区の住民から、何もやらないのかと、酒飲みで終わってしまうのかなということが出たので、週1回に集まっているろやっていますということなのですが、村としては、例えば車とかがすぐにエンジンかけたらスタートできる状態であるのか、それが何台あるのかの確保とか、すぐに出かけられるように、ある程度の、例えばかっぱとか長靴とか、その辺は対応できていますということには考えてもいいのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） 災害発生時の公用車の確保につきましては、当然、今ある公用車につきましては、通常運転できていますので、全て使えるものと思っております。

また、雨具、長靴等については、採用されている職員全員に支給してございます。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 長靴等については、後ろの玄関、後ろの通用口から多分入って行って履く、履き替えるのですよね、恐らく。それでやっていただくのと、それを車ですぐ、車は向こうの駐車場でしょから、その辺の連携をきちんと取っていただければ、もっと早く現

地に向かうことができると思いますので、その辺はぜひお願いしたいと思います。

あわせてなのですが、防災マップ、最後になりますが、防災マップの配布ということで、急傾斜地と土石流関係で、今回初めて出た言葉なのですが、地滑り地区ということで、奥撫地区にそれが出てきたのですよね。今までなかったのですよ、これが。この確認は役場ではしているのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 地域整備課長。

○地域整備課長（高林浅輝君） ただいまの林議員の奥撫地区、地滑り地帯ということで確認をしているのかというところでございますが、福島県の土砂災害警戒区域でございます。現在、奥撫地区の1か所が指定されているところでありまして、指定箇所につきましては、毎年、現地で点検と変調調査を村と合同で、県と合同で実施しております。異常がないことを、今年も確認してございます。

また、大雨や地震等の際にも点検をしております、異常がないことを確認しているということでございます。

以上です。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 地形の問題とかかなと思うのですが、石川郡だと石川町に次いで玉川村が多いのですよね。やはり今回、地滑りという新しい言葉が出てきたのですが、急傾斜地はないということで、その辺がものすごい。地図を見ましたらば、人家の後ろにもネット張ってあるのですよね。それからずっと1軒の家の物置から何から全部含めて、そんな形になってきております。これってやっぱり誰が見ても、ああ、何かあったときに大丈夫だろうなというふうな、私は捉え方をしていたのですが、やはり県のほうで見て、ドローンとかいろいろ飛ばして確認をしているかと思うのですが、その辺を指定して下さっただけでも、ありがたいなと思います。

やはり県で指定したものの把握が、玉川村としては全域、今回、8年間の間に、急傾斜地298か所、土石流の関係が26か所、合計の324か所については、役場の地域整備のほうでは、ほとんど把握しているのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 地域整備課長。

○地域整備課長（高林浅輝君） ただいまの林議員の質問でございますが、急傾斜地の崩壊箇所、全部で324か所ということでございますが、村として把握しているのかでございますが、こちらにつきましては、現在この数字も、急傾斜の崩壊298か所、土石流が26か所、合計324

か所が追加したということで、把握はしてございます。特に危険な場所としては、今後も、福島県と連携しながら、引き続き対応してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（小針竹千代君） 8番、林芳子議員。

○8番（林 芳子君） 嫌になるほどの細かい聞き方で大変申し訳なかったのですが、何して村民の命を守る、自分たちの命を自分で守ることになれば、やはり細かいこと、大まかなことではなくて、今すぐ何か起きた場合に、すぐに逃げられる状態が一番いいので、その状態は、村としても見本としてモデルとしてつくっていただきたいと思います。こういう形があるから、玉川村はこうなのだよという形をつくるためには、やはり細かいところの本当に基本の基本、誰も手つけないようなところから始まっていくのが一番いいのかなと思いますので、村当局と住民と、その中に入って議員が一緒になってできれば一番いいことですので、細かいこと大変申し上げたのですが、この辺はやはり人員を守るためだと思って、我慢して聞いてくださってありがとうございます。

以上で質問を終わります。

○議長（小針竹千代君） これをもって、8番、林芳子議員の一般質問を終わります。

ここで休憩とし、昼食といたします。

（午前 11時30分）

○議長（小針竹千代君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後 1時00分）

◇ 大 羅 将 君

○議長（小針竹千代君） 次に、6番、大羅将議員の発言を許します。

6番、大羅将議員。

〔6番 大羅 将君登壇〕

○6番（大羅 将君） ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、前もって通告を

しておきました3件について質問させていただきます。

まず、1件目ですが、ふるさと納税についてでございます。

平成20年度の地方税法等の改正によって、ふるさと納税制度が開始されました。この制度は、人口減少による税収の減少への対応や、地方と大都市の格差是正を目的として作られました。

総務省によると、ふるさと納税制度による令和5年度（2023年度）の寄附総額は、前年度より15.8%増え、約1兆1,175億円と発表されました。利用者数は前年度より約107万増え1,000万2,000人、1兆円を超えるのは初めてで、返礼品の品目充実や物価高騰下の節約志向で利用が伸びたとされています。住民税納付者の約6人に1人は利用している割合となり、4年連続で過去最高を更新いたしました。

福島県においても、令和5年度の寄附総額は、前年度の約1.5倍の約89億円となり、こちらも4年連続で過去最高を更新しています。本村でも、前年度より寄附額は増加しているが、自主財源の確保や本村の魅力のPR、関係人口の創出等に向けた寄附額の増加や情報発信をしてほしく、次の5点について伺います。

1点目は、昨年度の寄附金額と人数についてお伺いいたします。

2点目は、現在の返礼品の業者数と品数についてお伺いいたします。

3点目は、昨年度の新規返礼品の品数と今後の新規返礼品への計画についてお伺いします。

4点目は、現在までの寄附金額と今年度の目標金額についてお伺いします。

5点目は、寄附金額を増やすための今後の具体的な取組についてお伺いいたします。

2件目ですが、防犯灯についてでございます。

令和5年6月17日に、議会広報編集特別委員会委員と玉川中学校3年生12名で、玉川村に対してのワークショップを実施いたしました。中学生からは、通学路は下校時に暗くて危ない箇所があり怖いと意見がありました。

防犯灯は、夜間における人が通行する生活道路で、暗くて通行に支障がある場所や防犯上不安がある場所に設置される電灯ですが、本村でも、村民の安全及び犯罪被害者の未然防止を図るために設置がされております。通学路だけではなく、本村全体の夜間の安全確保や主要道路等における防犯灯の新設促進の取組、現在設置してある防犯灯の交換等の体制整備を強化してほしく、次の4点について伺います。

1点目は、現在の防犯灯の設置個数についてお伺いします。

2点目は、防犯灯のLED化と電気代の費用負担についてお伺いします。

3点目は、前年度の設置要望数と新規設置個数についてお伺いします。

4点目は、今後の防犯灯新規設置、交換等への計画についてお伺いいたします。

3件目ですが、防犯ブザーの無償配布についてでございます。

防犯ブザーは、児童が身に危険を感じたときなどの万が一の際に、恐怖で声が出ない場合に大きな音で危険を周囲に知らせることができます。犯罪者へ威嚇とともに、子供たちが助けを求めることを周囲の住民に知らせる機能であります。また、現在は、子供だけではなく、大人も防犯ブザーを持ち歩くことが多くなってきています。窃盗などの犯罪を未然に防げたり、空き巣などの侵入対策のアラーム、けがや体調が悪化したときなど緊急時に助けを呼ぶことなど、高齢者や持病を持っている方に適しているとされています。

児童に対しての通学時等の防犯対策や高齢者に対しての緊急時対応へ、防犯ブザーを活用した対策を強化してほしく、次の5点について伺います。

1点目は、現在、防犯ブザーを携帯している児童の所持率についてお伺いいたします。

2点目は、児童への防犯ブザーの無償配布についてお伺いいたします。

3点目は、高齢者への防犯ブザーの無償配布についてお伺いいたします。

4点目は、防犯ブザーの定期点検や壊れたときなどの交換、購入費用の補助についてお伺いします。

5点目は、防犯ブザーの使い方等の防犯教室の実施計画についてお伺いします。

以上、よろしくお願ひいたします。

○議長（小針竹千代君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長。

〔村長 須釜泰一君登壇〕

○村長（須釜泰一君） 6番、大羅議員のご質問にお答えをいたします。

1つ目のふるさと納税についてであります。ふるさと納税は平成20年度から開始された、自分のふるさとや応援したい自治体など、好きな自治体を選んで寄附ができる制度であり、原則として、寄附額のうち自己負担額2,000円を除いた全額が控除の対象となります。

ふるさと納税制度では、寄せられた寄附のうち半分以上を自治体が独自の財源として使用できるようにするため、返礼品の調達費用など寄附を募るために必要な経費は、寄附額の5割以下に抑えるよう総務省が基準を設けており、昨年度からは、過度な返礼品競争を防ぐため、5割以下とする基準がさらに厳格化されました。なお、本年10月から、募集適正基準や

地場産品の基準を見直すことが総務省から通知されているため、村においても、現在、新たな基準に適合するよう調整しているところであります。

今後も、玉川村を応援したいという皆様の思いを、本村の元気な村づくりに活用させていただくとともに、返礼品等についても、村の魅力を発信するツールとして活用してまいりたいと考えております。

5点目の寄附金額を増やすための今後の具体的な取組につきましては、委託先と連携しながら新規商品の開発や各種物販でのPR等を行い、新たな寄附者を増やしてまいりたいと考えております。また、既存の寄附者に対しては、メルマガなどを利用し、再度寄附をしていただけるよう呼びかけてまいりたいと考えております。

次に、2つ目の防犯灯についてであります。4点目の今後の防犯灯新規設置、交換等の計画につきましては、現在、各行政区で地域の方の要望等を取りまとめているので、今後、令和6年度の防犯協会の予算の範囲内で計画してまいります。

次に、3つ目の防犯ブザーの無償配布についてであります。4点目の防犯ブザーの定期点検や壊れたときの交換、購入費用の補助につきましては、定期点検や購入補助、交換等の補助はございませんが、関係機関等からの要請等が多数寄せられた場合には、周辺自治体の状況等を調査研究してまいりたいと考えております。

5点目の防犯ブザーの使い方等の防犯教室の実施につきましては、現在どのくらいの方が防犯ブザーを所持し利用されているかを把握しておりませんので、現時点では実施する予定はありません。

その他のご質問につきましては、総務課長から答弁させていただきますので、ご了承を願います。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） お答えいたします。

1つ目のふるさと納税についてであります。1点目の昨年度の寄附金額と人数につきましては、寄附金額が1,694万8,000円、人数が814名となっております。

2点目の現在の返礼品の事業者数と品数につきましては、事業者が15社、品数は119種類であります。

3点目の昨年度の新規返礼品の品数と今後の新規返礼品の計画につきましては、昨年度の新規返礼品は8品であります。また、今後の新規返礼品につきましては、皇室献上米「にじのきらめき」、お米食べ比べセット、あぶくまビールのクラフトビールや、9月にオープン予定しております乙な駅の食事券や、アクティビティ体験の商品について、新規返礼品と

して計画をしております。

4点目の現在までの寄附金額と今年度の目標金額につきましては、現在までの寄附金額につきましては、7月末時点で187万5,000円となっております。目標金額は、予算額である1,800万円としております。

次に、2つ目の防犯灯についてであります。1点目の防犯灯の設置数につきましては、まず、防犯灯については村予算で設置をしているのではなく、玉川村防犯協会が村民の皆さんから頂いた防犯協力費を財源にして設置しており、現在の設置灯数は約760灯となっております。

2点目の防犯灯のLED化と電気代の費用負担につきましては、各行政区等で契約している防犯灯につきましては、平成28年度までにLED化への移行が完了しております。また、電気料につきましては、各行政区等で契約、支払いを行い、村に対して交付申請のあった各行政区等に対し、電気料の約半額を防犯灯電気料補助金として交付をしております。

3点目の前年度の設置要望数と新規設置数につきましては、令和5年度においては、設置要望のあった12灯全てを設置しております。

次に、3つ目の防犯ブザーの無償配布についてであります。まず、1点目の現在防犯ブザーを携帯している児童の所持率につきましては、所持率に関する調査等は行っておりませんので把握しておりません。

2点目の児童への防犯ブザーの無償配布につきましては、過去には平成17年12月13日に、村内幼稚園児及び小中学校児童生徒に対し、教育委員会より配布実績がございましたが、現在は行っておりません。なお、民間企業から小学校入学時に防犯ホイッスルが寄贈されております。

3点目の高齢者への防犯ブザーの無償配布につきましては、これまで村では実施はしておりません。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） それでは、再質問をさせていただきますが、まず、1件目のふるさと納税についてでございます。

先ほど答弁の中で、814名の方が寄附されたというところで、自分のふるさとを応援したいとか、応援したい自治体の寄附だったり、今回、物価高、高騰というところで、節約の面で返礼品を求めて寄附する方もいたかと思えます。

まず、昨年度の寄附金額は、県内59市町村の中で何番目の寄附金額だったのか。また、昨

年度、寄附額が多かった品物は何かお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の再質問でございます。

昨年度のふるさと納税の寄附額、県内59市町村の中で何番目の金額かというふうなことでございますが、県内で36番目でございます。

また、2つ目の寄附金が多い品物、またその金額はどれくらいかというふうなことでございますが、件数が最も多かったのが桃でございます。寄附金額は約900万円となっております。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 次の質問にさせていただきます。

本年10月から、募集適正基準や地場産品の基準を見直すことが総務省から通達されていると、先ほどの答弁でありましたが、現在の返礼品に関して、基準に適していない品物等はあるのかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の質問でございます。

募集適正基準や地場産品基準について適合していない品物はあるかどうかというふうなことでございますが、こちらの見直しにつきましては、今年の6月に通知がございました。6月に通知が来ましたので、委託業者と現在確認中ではありますが、適していない品物はないと思われま。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 次に、4点目の、現在までの寄附金額と今年度の目標金額について再質問させていただきます。

先ほどの答弁の中で、7月末現在で187万5,000円と、目標金額、予算額の約10分の1程度だと思えます。今年度、国のほうでも寄附額が下がるのではないかと推測はされているところですが、玉川村の、本村としてはどのような分析をしているのかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の質問でございます。

現在まで目標金額の10分の1程度だが、今後どのような考えかというふうなことでございますが、先ほど再質問でお答えしましたとおり、昨年度は桃が非常に好評で約900万円の寄附の申込みがありました。桃の季節も既に終わってしまっておりますので、今年度は大変厳

しいという状況だと思います。

要因といたしましては、桃の本場である県北地方のほうに、やっぱり桃の寄附が多く流れていった。もう一つは、今年の1月に発生しました能登半島地震等の災害被災地を応援する寄附というふうに、そちらが多くなっているというふうなことが考えられると思います。

対策としましては、先ほどもお話ししましたが、今月オープンします複合型水辺施設「乙な駅たまかわ」での商品開発を検討しまして、一生懸命寄附を募ってまいりたいと思います。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 今のお話であったように、新しい新規返礼品を増やして、寄附者の方に選択肢の幅を増やすということは、すごく大事だと考えております。

先ほどの村長の答弁でもあったように、新規商品の開発や既存の寄附者へのメルマガなどの利用も非常に大事だと思っておりますが、今年度からは全職員を情報発信員として、情報発信力を強化しているということなので、玉川村のふるさと納税の商品カタログを最新バージョンに作成して、そういった説明をしたり配布するなど地道な活動が、今後、寄附額の増加へつながっていくと考えますが、その点どのように考えているかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の再質問でございます。

現在のふるさと納税の商品カタログを配布するなどの活動が必要ではないかというふうなことでございます。

ふるさと納税は、多くの方が地方のふるさとで生まれ、その自治体から医療とか教育とかの住民サービスを受けて育ちまして、多くの方が、やがて進学、就職を機に生活の場を都会に移してしまいます。そこで納税を行っております。その結果、都会の自治体は税収が増えて、自分を生んでくれたふるさとというふうなところには税収がありません。そこで、幾らかでも納税できる制度があったほうがよいというのが、このふるさと納税でございます。

議員のおっしゃるとおり、地道な活動というのが必要でございますので、今後、商品カタログを最新バージョンにしまして、配布等を行ってまいりたいと思います。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 1件目の質問は終わらせていただき、次の2件目の防犯灯について再質問させていただきます。

まず、1点目の現在の防犯灯の設置個数というところが、先ほど70灯だと、70基あるとのことでしたが、僕、移住者目線で見ると、やはり暗いなというところは最初感じました。そ

の部分、また反面、星がきれいなど、すごくいい部分もあったりして、選んでよかったなというところもありますが、学生からすると、通学路が暗くて怖い、危ない箇所があり怖いなどお話があり、僕も昨日、雨の中、夜歩いてみたところ、やっぱり歩道だったりとかがやっぱり見えなくて、どうしても安全性を考えると車道に出てしまって、そこが雨が降っていると車が猛スピードで来て、すごく危ない思いをしました。

私たち、一般的には車で運転しているので、そういった危ないなと感じることはないが、やっぱり学生目線で見ると危ない箇所があり、怖いというところが意見がありますが、現在70基、70灯ついているというところだが、玉川村としては、適正な数というのはどれぐらいなのかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） 初めに、街路灯の数につきましては約760灯でございます、70灯ではなくて。

760灯が適正な数かどうかというふうなことのご質問かと思いますが、現在の設置数につきましては、先ほどもお話ししたとおり、各行政区からの要望により設置している数でございます。これにつきましては、今後も当然増えていくことが予想されると思います。適切な設置数につきましては、各行政区から、もう要望がなくなったときというのが適正な数かと考えております。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 先ほどLEDへの移行が現在完了しており、蛍光灯よりは電気代が抑えられていると感じています。

防犯灯電気料補助金等で約半額を補助しているというところだが、近年、電気代の高騰により、各行政区の負担も増えていると考えます。また、暗いが、電気代がかかってしまうため、新設するのは、さらに各行政区の負担が増大することとなります。これらの状況をどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員のご質問でございます。

電気代の高騰により、行政区の負担が増えているというふうな状況をどのように考えているかということでございますが、先ほども答弁したとおり、防犯灯は各行政区からの要望を区長さんが取りまとめて、住民の方々に負担をいただいている防犯協会費を財源に設置しております。設置管理者は行政区となりますので、電気代は行政区が負担することになってお

ります。電気代の高騰により、負担が厳しい状況ではあると思いますが、今後も応分の負担についてご協力をいただければと考えてございます。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 防犯灯の最後の質問になりますが、今後の防犯灯、新規設置、交換等への計画について再質問させていただきます。

10年前の平成26年度末は439基に比べると、年々新規に設置され、現在は約760というところで、防犯の効果が表れていると感じております。

防犯灯に関しての基準なのですけれども、25メートル以上離れて、設置間隔は野外照射からおおむね25メートル以上、照射基準では、危険を回避できる距離として4メートル先の歩行者が、歩行者の見え方が基準としているというところもあるが、村として、こういった基準というのは設けているのでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の再質問でございます。

防犯灯の設置基準というのを村で設けているかということでございますが、防犯灯の照度基準は、公益社団法人日本防犯設備協会が設定しております。玉川村におきましては、先ほども説明しましたが、各区からの要望にのみ応えて設置をしておりますので、村独自の基準というものは設けてはございません。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） それでは、2点目の質問は終わらせていただき、次の3件目の防犯ブザーの無償配布について質問をさせていただきます。

まず、1点目の防犯ブザーの所持、所持率についての再質問ですが、防犯ブザーを携帯しているかどうかの調査を現在は行っていないというところですが、防犯ブザーの必要性というのはどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） 防犯ブザーの必要性とはどのように考えているのかという再質問でございます。

防犯ブザーにつきましては、様々な防犯対策の中の一つの大切な手段であるとは考えておりますが、その必要性につきましては、個人ごとに判断するものではないかと考えてございます。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 今の答弁だと、個人ごとというところですが、先ほどの答弁では、平成17年に、幼稚園から中学生、児童生徒まで配布したとあります。教育委員会のほうで配布したと答弁がありました。それから約19年が経過しており、今、防犯ホイッスルのほうを民間のほうから提供をいただいているというところですが、防犯ホイッスルは、小さな息でも大きな音が出て、周りの人に非常事態を知らせるのに役に立つ、電池切れの心配もありません。しかし、吹き続けたり、口を塞がれたときには使うことが難しくなっております。

初動の防犯は防犯ホイッスル、継続的な防犯対策は防犯ブザーと、二段構えの防犯対策として、平成17年同様、防犯ブザーを無償提供してはいかがと思いますが、その考えをお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の再質問でございます。

平成17年同様に防犯ブザーの無償配布をしてはどうかとのご質問でございますが、現段階におきましては、各種学校の会合等の際にも、特に防犯ブザーに対する要望等もございませんので、配布の予定はございません。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 続いて、高齢者への防犯ブザーの無償配布についてなのですが、玉川村の高齢者に関しては、防犯ブザーの必要性を分かっている人が少なく、携帯している人も少ないと思います。例えば、防犯ブザーつきの万歩計など、高齢者が常に持ち運べるようなものを無償提供すると、村の防犯強化につながっていくと考えますが、村の考えを伺います。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の再質問でございます。

高齢者への防犯ブザーを無償提供してはどうかというふうなことでございますが、こちらにつきましても、現段階におきまして、各種高齢者の介護等で防犯ブザーの必要性を訴えるような要望もございませんので、今のところ配布は考えておりません。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 最後に、5点目の防犯ブザーの使い方等の防犯教室の実施について再質問させていただきます。

いざというときに、持っていなかったり、使えなければ意味がないものだと考えます。防犯教室等で、まずは防犯ブザーを所持する必要性を説明したり、その後、使い方をレクチャ

一するなど、段階を踏んで防犯対策を行っていくことが今後必要かと考えますが、どのような考えなのかお伺いいたします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの大羅議員の再質問でございます。

防犯ブザーの必要性を説明したり、その使い方をレクチャーするなどの防犯対策が必要ということでございますが、防犯ブザーが防犯対策機器の中の一つであること等については、今後何らかの形で周知を検討してまいりたいと思いますが、使い方等のレクチャーについて、それだけの教室ということではなくて、公民館事業等の中で、何らかの形で周知等ができれば、できるかどうか検討したいと思います。

○議長（小針竹千代君） 6番、大羅将議員。

○6番（大羅 将君） 防犯ブザーに関して、やはり持っていなかったり、いざというときに、ランドセルの脇についていて使えなかったりという事例もありますので、そういったところは、防犯ブザーだけではなくて防犯対策の一つとして、小学生、そして中学生、幼稚園などにお話をしていただき、保護者の方にもそういった周知をしていただければ、今後の防犯対策になっていくと、一助になると思っております。

以上で私の質問は終了させていただきます。

○議長（小針竹千代君） これをもって、6番、大羅将議員の一般質問を終わります。

ここで10分間の休憩を取ります。

（午後 1時36分）

○議長（小針竹千代君） 休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

（午後 1時46分）

◇ 佐久間 福 男 君

○議長（小針竹千代君） 次に、3番、佐久間福男議員の発言を許します。

3番、佐久間福男議員。

〔3番 佐久間福男君登壇〕

○3番（佐久間福男君） ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、さきに通告しております内容についてお伺いします。

1、消防団の現状と今後の取組について。

消防団の果たす役割と重要性については、十分に理解と認識をしているところです。現在の消防団の取り巻く環境が年々厳しくなってきたことを受け、すごく危機感を感じています。

国内、村内で抱えています少子高齢化社会の中、生活形態の変化により、県外、村外へ生活拠点を移しているケースや、個人の生活を優先するようになってきており、社会貢献、ボランティア活動をする気持ちの薄れなど様々な要因により、消防に関わる若者の担い手不足、団員確保が大きな課題として挙げられています。安全安心な地域づくり、災害に強い村づくりを目指すにおいて、消防団を中核とした地域防災力の充実強化の観点から、次の点についてお伺いします。

①消防団の現状について。消防団員、条例定数、確保の取組。消防団協力員の体制。婦人消防隊の在り方、組織体制の構築を含む。消防団サポート事業。

②消防団のさらなる充実に向けた取組について。団員がやりがいを持って活動できる環境づくり。活動基盤の改善への取組、活動の負担軽減についてお伺いします。

○議長（小針竹千代君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長。

〔村長 須釜泰一君登壇〕

○村長（須釜泰一君） 3番、佐久間議員のご質問にお答えいたします。

消防団の現状と今後の取組についてであります。1点目の消防団の現状につきましては、現在の消防団は、従来までの消防団とは違い、人口減少や勤務体系の変化、新型コロナによる影響などもあり、今までどおりの活動が円滑に進まない現状であります。団員確保、協力団員制度、婦人消防隊については、制度の見直しが必要な状況となっており、現在、消防団の在り方検討委員会を立ち上げ、組織の見直しや制度の改善等について検討しているところであり、今年度中を目途に方向性を見いだしてまいりたいと考えております。

消防団サポート事業につきましては、他市町村の実施状況において、飲食店等での割引などの事業参加が多くありますので、今後、村内の飲食店等での協力体制が可能か、村商工会

とも連携を取りながら調査してまいりたいと考えております。

2点目の消防団のさらなる充実に向けた取組につきましては、団員がやりがいを持って活動できる環境づくりや活動基盤の改善に向けて、現在の消防団の現状を踏まえ、今後の消防団の在り方を見直すため、消防団の在り方検討委員会の中で、団員の確保、消防団及び婦人消防隊並びに協力団員制度の基本構成の変更と併せて総合的に検討しているところであります。

今後、見直し内容を具体化するとともに、地域と消防団がより一層協力して活動できる体制づくりに取り組んでまいります。

○議長（小針竹千代君） 3番、佐久間福男議員。

○3番（佐久間福男君） ①のことについて再質問させていただきます。

現在、条例定数305名、こちらの改正定数につきましては、昭和55年4月1日のものです。令和6年4月1日現在、今現在ですけれども、実働数が226、79名減、パーセントで25.9%減の状況で活動のほうを行っている状況です。

村民懇談会の場や、消防団幹部会議の場でも、各分団より、新入団員の勧誘が年々厳しいとの意見などが強く挙げられています。今の現状を踏まえて、条例定数との開きについてどうお考えかお伺いします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの佐久間議員の再質問でございます。

現在の条例定数305名に対して、現団員数が226名という現状をどのように考えているのかということですが、消防団員の条例定数の見直しは、これまで4回実施されております。昭和30年の設立時には定数が357人でした。昭和45年に325人、昭和51年に308人、先ほど佐久間議員がおっしゃられましたように、昭和55年に305人に改正をしております。前回の改正からもう44年が経過しており、この間、先ほどのお話のとおり、消防団幹部の中、村民懇談会の中でも、いろいろな要望を受けたところでございます。

先ほど村長の答弁にもありましたとおり、消防の在り方検討委員会、今、開催しておりますので、こちらの中で定数を含めた検討をしておりますので、その検討結果を基に対応してまいりたいと考えてございます。

○議長（小針竹千代君） 3番、佐久間福男議員。

○3番（佐久間福男君） 続けて再質問をさせていただきます。

今までの過程、経歴のほうを、条例定数の回答ありましたけれども、昭和55年4月1日現

在で玉川村の人口が7,431、現在、令和6年4月1日現在で6,187、人口減少人数で言いますと1,244名、当時から人口が減っているというふうな状況にあります。そういった背景もありまして、団員確保に大変苦慮しているというところも、一つの要因として考えられます。

しかしながら、各分団においては、団員数確保をするため、分団長2年、分団長任期を終えて分団に残り、維持を図っている状況が続いています。在籍年数、年齢が年々上がってきている現状でもあります。

定数の見直しが、団員数確保の改善策ではありませんが、現在の消防の状況を踏まえ、消防団の今後の在り方を見直すため、検討委員会で総合的に検討しているとの回答から、既存の消防団協力員体制、婦人消防隊の在り方を含め、第7次振興計画に落とし込むなど、持続可能な組織体制づくりに取り組んでいただきたいと思います。

消防団サポート事業についての再質問になります。追加としまして、提案になりますが、能力向上等に資する資格制度などを設けてみてはどうかというふうに考えますが、この考えについていかがお考えでしょうか、お伺いします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの佐久間議員の再質問でございます。

各種取得の際のサポート事業等について、どのように考えるか、どのような考えかというふうな質問でございますが、取得する資格がどのようなものかにもよると思いますが、基本的に個人の資格等の助成について、現段階では考えておりません。

また、近隣町村等で具体的なそのような例があるか、今後、調査を試みたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 3番、佐久間福男議員。

○3番（佐久間福男君） ぜひ調査のほうをよろしく願いをいたします。

続きまして、②についての再質問をさせていただきます。

団員がやりがいを持って活動できる環境づくりについてですが、やりがいは消防活動を通して感じてくるものと考えます。しかしながら、今後、対外的な交流などを取り入れる活動並びに活動、取組の広報のPRの頻度を上げ、再度広く地域の皆さんに通知していただく活動も必要と考えます。

そこで、次の活動基盤の改善の取組についてですけれども、活動、現場に行った際、業務の効率化を図るためにデジタルシステムの導入、今現在、消防団専用のアプリなどがありまして、管内でもこちらのアプリを使用しながら活動を行っているというふうな事例のほうも

確認をしております。こういった現場の位置情報や水位の設置箇所などが分かりやすくアプリの中で提示され業務の効率化が図られる、このシステムの導入する考えはあるかどうかをお伺いします。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの佐久間議員の再質問でございます。

消防団専用のアプリを導入してはどうかというふうなことでございますが、現在のところ、現時点におきましては、消防団だけのシステム導入というのは予定はございませんが、村では昨年からの防災アプリを導入しております。この防災アプリのシステムの中で、位置情報でしたり水利施設の場所の表示が可能かどうか、今後調査してまいりたいと考えてございます。

○議長（小針竹千代君） 3番、佐久間福男議員。

○3番（佐久間福男君） 確かに、消防団専用アプリにつきましては、一定の費用がかかりますので、今、回答されたシステムの中に組み込まれて運用できればというふうにも考えますので、ぜひこちらのほうをご検討のほうをお願いいたします。

続きまして、団員の処遇改善の面ですけれども、現在、今、現在進行形で動いているかもしれませんが、活動服の中にTシャツのほうを作製していただけるかなというふうにご考えております。こちらは夏場の訓練、警備、活動などで使用するものになります。須賀川・石川管内を見ても、装備されていないのは玉川村で、ぜひこちらのほうの作製をお願いしたいというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 総務課長。

○総務課長（須田潤一君） ただいまの佐久間議員の再質問でございます。

夏場の訓練や警備時のときの対応のためにTシャツを作製できないか、管内須賀川で作製していないのは玉川村消防団のみと思われたということでございます。猛暑の中での訓練や、夏祭りの警備の際にも、現在は長袖の作業着で活動されており、本当に感謝申し上げます。

災害時は、けがも、けがを防ぐ意味からも長袖が基本だと思いますが、訓練や警備の際は、逆に熱中症等も心配されますので、早急に近隣町村等を調査し、財源を含めて作製に向けて検討したいと思っております。

○議長（小針竹千代君） 3番、佐久間福男議員。

○3番（佐久間福男君） ぜひよろしくお願いをいたします。

最後になります。我々も含め、村民の生命、身体及び財産の災害からの保護における地域防災力の重要性から、消防団が将来にわたり地域防災力の中核として、欠くことのできない

代替性のない存在、繰り返します、代替性のない存在であることから、積極的な介入が促進されるよう、自らの地域は自ら守るという意識の啓発を図り、必要な措置を各地域の協力を得ながら講じていかなければならないと考えております。

以上で質問を終わります。

○議長（小針竹千代君） これをもって、3番、佐久間福男議員の一般質問を終わります。

◇ 須藤安昭君

○議長（小針竹千代君） 次に、7番、須藤安昭議員の発言を許します。

7番、須藤安昭議員。

〔7番 須藤安昭君登壇〕

○7番（須藤安昭君） ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、さきに通告しておきました内容について質問させていただきます。

1、太陽光発電設備の適正な設置について。

太陽光発電設備設置の工事による土砂崩れ、雨水等の流出などの災害、自然環境や景観の毀損等が各地で問題となっております。また、老朽化した設備の処理がなされず、責任の所在が曖昧となり、放置されることが懸念されます。

玉川村に住みたくなる環境、豊かな自然を子孫に残すことが私たちの責務と考え、次の質問をいたします。

①玉川村での太陽光発電設備の稼働件数についてお尋ねします（家庭用は除きます）。また、現在計画が進んでいる件数についてもお尋ねします。

②太陽光発電設備は、土地の所有者と事業者の合意があれば設置されてしまうのか、それを規制する法律等はあるのかお尋ねします。

③質問の背景で述べた課題及び目的に対する今後の対応についてお尋ねします。

2、遊水地集団移転地に係るアクセス道路整備について。

国の遊水地群整備事業において、移転を余儀なくされる方、先祖伝来の土地を手放される方、移転地や代替地のために土地を提供される方に報いる方法の一つとして、地域振興策を具体化することが何よりも重要であると申し上げてまいりました。過去の定例会の議事録に目を通していたところ、令和元年12月定例会で小林議員が質問された、村道竜-15号線、同

じく竜-16号線の道路整備の課題は、まさに現在の状況を見越した内容でしたので、切り口を変えて質問をさせていただきます。

1、原作田地区の集団移転地から国道118号に接続する村道竜-15号線及び竜-16号線について、移転先への利便性を高める周辺整備事業として拡幅するよう国に要望すべきと思うが、村長の考えを尋ねたい。

2、村道竜-15号線の狭隘区間を改良し、生活道路として移転者が安全かつ円滑に通行できるよう整備すべきと思うが、村長の考えを尋ねたい。お願いします。

○議長（小針竹千代君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長。

〔村長 須釜泰一君登壇〕

○村長（須釜泰一君） 7番、須藤議員のご質問にお答えいたします。

1つ目の太陽光発電設備の適正な設置についてであります。2点目の規制する法律等につきましては、本年6月定例会において、円谷議員の一般質問で答弁しましたとおり、太陽光発電設備に関して、本村における景観に関する制限等については、福島県景観条例に基づく届出のみとなっております。工作物の形態等については、設置そのものを制限できるものとはなっておりません。

3点目の今後の対応につきましては、本来、太陽光発電事業を含めた再生可能エネルギーは、脱炭素社会の実現に向けた環境保護のための事業であるため、地域の自然環境や生活環境、景観等に悪影響を与え、さらには災害に対する安全性を著しく低下させてまで進めるべきではないと考えており、災害につながるような乱開発については規制の対象となっておりますので、現状では村内にはないものと認識しております。

議員からいただきました問題提起や地域の現場の声などをしっかり受け止めまして、必要な改正等を県や国に要望をしております。

一方で、平成23年3月11日に発生した東日本大震災、それに続く東京電力福島第一原子力発電所事故による災害を受け、県では、同年8月に震災、原子力災害から福島の復興を成し遂げるため、福島県復興ビジョンを策定し、「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり」とする基本理念を掲げるとともに、復興に向けた主要施策の一つに再生可能エネルギーの飛躍的推進を位置づけております。村におきましても、福島県再生可能エネルギー推進ビジョンに基づき、再生可能エネルギーの普及推進を図るため、住宅用太

太陽光発電システム導入に対する補助事業などを実施しているところであります。

なお、太陽光発電事業に規制をかける条例の制定等については、村民懇談会でいただいたご意見や先進事例等を参考にしながら、再生可能エネルギー施設と環境、そして地域との共生が図られるよう、調査研究をしてみたいと考えております。

2つ目の遊水地集団移転地に係るアクセス道路整備についてであります。1点目の村道竜-15号線及び竜-16号線につきましては、代替地に移転した方が自宅から国道118号への行き来に使用する道路になることから、安全安心に通行できるよう環境を整えることが重要であると考えております。

当該道路の拡幅等につきましては、先般の村民懇談会においても整備を求める声をいただいたことから、去る7月30日、鏡石町長及び矢吹町長と共に福島河川国道事務所長に対して行った要望の中で、国が遊水地立地地域において周辺環境整備事業を実施し、集団移転地へのアクセス道路についても整備するよう求めたところであり、移転者等における交通利便性の向上に向け、今後も様々な機会を通じて国による対応を求めてまいります。

2点目の村道竜-15号線の狭隘区間等の改良、整備につきましては、道路の両脇に家屋がある幅員の狭い箇所があり、また道路脇の側溝に蓋がない部分があるなど、通行者にとって課題の多い道路となっております。当該狭隘区間の解消については、用地の取得や家屋移転のほか、国道118号と交差点改良工事が必要となることを見込まれるなど、大規模な事業になることが想定されます。

このため、村では国に、遊水地事業の集団移転先につながるアクセス道路として、狭隘区間の拡幅も含めて周辺環境整備事業の中で整備するよう求めているところであります。また、村として対応が可能な方法等についても、引き続き検討してみたいと考えております。

その他のご質問につきましては、住民税務課長から答弁させますので、ご了承を願います。

○議長（小針竹千代君） 住民税務課長。

○住民税務課長兼会計管理者（塩澤春美君） お答えいたします。

1つ目の太陽光発電設備の適正な設置についてであります。1点目の玉川村での太陽光発電設備の稼働件数及び計画件数につきましては、経済産業省資源エネルギー庁で公表しております。固定価格買取制度における再生可能エネルギー発電設備導入状況等によりますと、令和6年3月末現在、発電出力10キロワット以上の産業用発電設備は、計画も含め84件となっております。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず、答弁にもありましたが、私も再生可能エネルギーの一つである太陽光発電は進めていかなければならないと、そのように考えております。

それから、経済産業省のデータによるとということで、村内における太陽光発電設備の稼働件数と計画件数は84件ということの答弁がありました。

これにつきましては、本来は玉川村として事業の計画の受付や、あるいは稼働の実態を管理すべきと思うのですが、その点についてどう考えるかお尋ねいたします。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをさせていただきます。

まずは、太陽光発電の大きい家庭用以外の太陽光発電の設置状況について、村で把握すべきということではありますが、これにつきましては、経産省のほうでデータを出していますから、それについてはしっかりと把握をしておりますし、どこにどんな形で設置されているかについては把握をしております。

ただ、答弁もさせていただきましたとおり、今、太陽光発電を設置する際に、規制できる、そういう項目がありませんので、答弁させていただきましたように、村といたしましても、その規制するべきとするような、そういう条例等の在り方につきまして、先進事例でしたり、あとは制度的なものを調査研究していきながら、どういう在り方が、適正な形で太陽光発電を設置していけるような、そういう方法があるのかという部分については、調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） それで、現在なのですが、蒜生恵平地区に計画されている太陽光発電事業の営業の担当がおるのですが、今そのお話なのですが、耕作放棄地の雑草あるいは雑木は切らないでほしいと、そのようなことです。その狙いは、農地から農地以外に地目を変更し、農地法の適用を逃れたいと、そのようなことではないのかなと、この部分は推測ではありますが、そんなことがあります。

また、近隣住民説明会の資料を作成しましたが、実際には住民に配らずに、開催日を過ぎてから地権者のみに配られたと、そういう事実があったそうです。これは、住民説明会開催を偽装しているというふうに捉えられても仕方のない事実であります。

さらには、矢吹町では条例があるので、矢吹町以外での事業を進めていると、このような話をしていると地権者から伺っております。

また、蒜生地区の過去の設備工事では、侵入道路がないために、他人の農地に無断で入り工事を進めてトラブルになったと、そういう事実もございます。

このような実態に対して、どのように、先ほど規制する条例はないというお話は伺いましたけれども、こういった状況に対して、どのような対応を考えておられるかお尋ねをいたします。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをさせていただきます。

まず、農地法の関係の部分については、まさに議員が今お話しされたとおりでと思います。太陽光発電の設置に対しての規制はなかなか厳しいのですが、農地を農地以外のものに転用するという場合については、そこは許可という行為が必要になってまいりますので、そういう意味では、それを受けなくてもいいような、その手法を考えているという部分については、恐らくそうなのだろうなということ想像しながらお聞きをしておりました。

条例をつくっていく中で、その規制をしっかりとかけることができる条例にしていけば、条例制定後につきましては、こういう条件の下ではできないので、これを設置することは難しいですよという言い方ができるかと思えます。

ちなみに、今、福島市なんかでも、メガソーラーの規制に向けまして条例化を進めているところでございまして、考え方としては、やっぱり再生可能エネルギーという部分については、地域と共生が大事であるということが一番だと思います。そういう中において、もうあらかじめ禁止区域を設定する、もう一つは、許可、この部分については許可を、申請して許可を受ければ設置することができるという二段方式にするようなことで記事等を読ませていただいておりますけれども、まさに我々も、これからそういう先進事例の考え方等について、いろいろと勉強させていただきながら、玉川村にとってはどういう方法が一番いいのかということについて、いろいろと勉強させていただきたいなというふうに思います。

少なくとも、あらかじめ説明がない、そういう説明がないままに物事が進んでしまうという、地域住民の方を無視したようなやり方というのは、絶対にあってはならないことだと思いますから、そういう実態という部分については、我々も村民懇談会の場でもお伺いしておりますので、しっかりとその辺を踏まえながら勉強させていただきたいと思えます。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） 先ほどの設置の計画は、蒜生地区に建設計画が進んでいるわけですが、実はその予定地から側溝を通じて雨水、雨水や土砂が流入し、小高地区の民家、農地、ビニ

ールハウスなどに大きな被害を与えることが予測されます。小高区といたしましては、災害への防止や補償について、確約書を業者と交わす予定で進めております。

先ほどの質問と少しダブる部分があるのですが、本来は村が設置計画を受け付け、そして審査をし、その上で指導だったり勧告だったりすべきではないのかなと、そのように思いますが、再度答弁をお願いいたします。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをさせていただきます。

この件につきましては、主質問の最初の答弁でお答えさせていただきましたとおり、本村におけます現在の制限等につきましては、福島県の景観条例に基づくもののみとなっておりますので、その中で一定程度のものがそろっていれば、それは制限をかけることができないという規定になっておりますので、現時点においては、村の制度において規制をかけることは難しいというふうに認識しております。

ただし、今、議員がお話しされたとおり、太陽光発電を設置したことによって、例えば森林が伐採されたり、地下水の水質が低下したりとか、あとは土砂災害につながっていくとか、様々課題というのは県内各地でも出てきておりますので、それはやっぱり脱炭素化のためとはいえ、そういうことがあってはならないというふうに思いますので、そういう状況も踏まえながら、それをいかにして制限をすることができるか、そういうことを勉強しながら、条例という部分についても検討してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） 矢吹町には、矢吹町太陽光発電設置事業と地域の調和に関する条例というものがあります。玉川村では、同様の条例制定の考えはあるのでしょうか、お願いします。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをいたします。

現在、県内におきまして、今ほどお話ありました矢吹町も含めまして、7つの市町村において条例が制定されておまして、先ほど私がお話ししたとおり、今、来年度、来年の4月施行に向けまして、福島市が検討しているということはお聞きしております。

村、玉川村といたしましても、やはりこの自然が崩壊されてしまうような、住民を無視して設置されるような太陽光発電という部分について、これは何らかの制限をかける必要があるという、そういう認識は強く持っておりますので、条例という形に向けて、どんな項目を

取り入れながら、玉川村に最もふさわしい条例とはどういうものなのかという部分について、先ほど言いました7つの先進事例でしたり、福島市で検討しているそういう条例の中身なんかも勉強させていただきながら、玉川モデルといえますか、玉川村にふさわしい条例を検討してまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） 条例制定に向けて調査研究をしていくということでお話を伺いました。

参考までとっては失礼なのですが、制定の研究、準備から条例施行までは、どのくらいの期間、急いでいただいてどのくらいの期間がかかるものでしょうか、参考までにお知らせください。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをいたします。

今まさに必要性について強く認識し、それで村民懇談会におきましても、住民の皆様方からそういうお声も伺っておりますし、今、議員からも、それぞれの地域において様々な課題が出ているということをお聞きしておりますので、そういうのを踏まえた上で、まずどんな課題があるのかという部分について、しっかり整理していく必要がございますし。

期間的な部分で言いますと、やっぱり内部にもプロジェクトチーム的なものをつくりまして、各課にまたがる部分でもありますので、1つの課が事務局機能を果たしながら、各課でプロジェクトチームをつくって検討しながらも、これは規制をする、そういう条例を目指してまいりたいと考えておりますので、外部のそういう検討委員会的なものも必要となるかと思えますし、あとはパブリックコメントも必要となってまいりますので、一月や二月ではできないものではないと認識しております。

ただ、今、議員からもおただしのように、やっぱり早めに策定し、そして施行することによって、少しでも住民の皆様を無視しない、そういう規定を策定していくことは必要だと思いますので、現時点におきましては、なるべく早く策定に向けて動いてまいりたいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） 答弁としては、なるべく早くという、そういう、何と申しますか、はい、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、仮に条例が制定された場合、既に稼働している事業、設備に対して遡及して規制をかけると、規制をかけるというか、何と申すかな、適用させるということは可能なので

しょうか。そういった部分があれば、若干、条例の制定が遅れても、ある意味では、何とい
うかな、心配が半減するかなと、そのように思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをいたします。

遡及適用が可能かどうかという部分につきましては、そこも含めて、その遡及適用が可能
かどうかにつきましても、検討課題にしたいと思っております。

実は、我々は規制的な条例を制定してまいりますので、何が今、課題になっていて、何を
しなければならないという部分の整理が必要ですし、一定程度先進事例を見ながら、そこは
類推しながらやっていくことが必要だというふうに認識しておりますが、本当にその遡及と
いう部分について、これがどうなのかという部分は重要な課題でもあると思っております。
これが権利を制限するものじゃなくて、利便性向上につながるものでしたら可能かもしれま
せんけれども、遡って規制をかけてしまうということについて、いかがなものかというこ
ともありますので、そこは法等とも照らし合わせ、さらには県等の機関とも調整しながら、法
的に違反にならないようにはしてまいりたいと思っておりますが、そこも含めて検討してまいり
たいと考えております。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） 早急に制定の準備作業に入っていただきたいと思えます。

次に、2つ目の遊水地集団移転地アクセス道路については、積極的に国に働きかけている
ということは分かりました。竜崎区長をはじめ、住民の皆さんの声を最大限に行政に反映し
てほしいと思えます。

遊水地整備事業は、玉川村発展の千載一遇のチャンスだと考えております。今回は、竜崎
地区の要望について質問いたしましたが、中地区にも小高地区にも、それぞれ要望がありま
す。国への陳情はもちろんでありますが、県会議員や国会議員へのロビー活動も重要だと、
そのように思いますが、村長はどうお考えでしょうか。

○議長（小針竹千代君） 村長。

○村長（須釜泰一君） 須藤議員の再質問にお答えをいたします。

遊水地、まさしく玉川村にとって最重要課題、大きなプロジェクトだと認識しております
ので、これをいかにして成功させ、そして、まさに今おっしゃられたとおり、これを一つの
きっかけとして、さらに進展させていく必要があるというふうに認識しております。

そのためには、あらゆる手段を使って、少しでも玉川村にとっていいように進めていくこ

とが必要だというふうに認識しておりますので、今、申し上げましたとおり、先日、7月30日に3首長で、町村長で、福島河川国道事務所長に対して要望を行いました。さらには、県とか県の農林水産部、土木部に対しても、その都度その都度お話をしていますし、福島県選出の国会議員の先生方に対しましても、その必要性等々については訴えているところでございます。

議員おただしのとおり、本当にあらゆる機会、あらゆる場面場面において、この遊水地に対しての課題でしたり、やってほしいことについては、しっかりと訴えていきたいと思えます。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（小針竹千代君） 7番、須藤安昭議員。

○7番（須藤安昭君） 期待しております。積極的な取組をお願いして質問を終わります。

○議長（小針竹千代君） これをもって、7番、須藤安昭議員の一般質問を終わります。

日程第2、一般質問は、本日は5名をもって終了とし、残りの2名については、あしたの再開後に行うことにいたします。

◎散会の宣告

○議長（小針竹千代君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

（午後 2時36分）